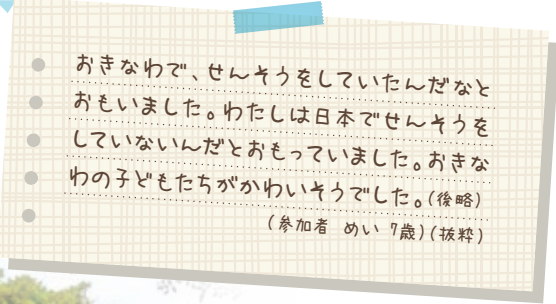


# 「ひめゆり平和祈念資料館オンラインガイドツアー」から考える 語り継ぐ沖縄戦 命と平和の重み



2023年3月、「ひめゆり平和祈念資料館オンラインガイドツアー」には19名の組合員親子が参加し、動画を見ながら沖縄戦とひめゆり学徒隊の戦争体験についてお話を聞きました。今の私たちと変わらない生活を送る女子学生が戦争に巻き込まれ、悲惨な経験を余儀なくされた実情を知り、改めて家族や友人と命の尊さ、平和の大切さについて話し、考えてみませんか。



おきなわで、せんきゅうをしていたんだとおもいました。わたしは日本でせんきゅうをしていないんだとおもっていました。おきなわの子どもたちがかわいそうでした。(後略)  
(参加者 めい 7歳) (抜粋)



現在90歳を超える元ひめゆり学徒たちから引き継ぎ、来館者の方にひめゆりの体験を伝える仕事をしています。

ひめゆり平和祈念資料館  
説明員  
おなべひろみ  
尾鍋 拓美さん

三重県出身。2001年大学のゼミ旅行で初めて沖縄を訪問し、沖縄戦・ひめゆり学徒隊について知る。さらに研究を深めるために2004年琉球大学大学院入学。2007年より現職に。

ひめゆり平和祈念資料館の前にはひめゆりの塔(慰霊碑)があります。亡くなったひめゆり学徒と教師、227名の名前が刻まれています。沖縄戦では未だ骨も見つかっていない方もいます。刻銘板に刻まれている名前は彼女たちが生きていた証です。



塔の前には沖縄の言葉で「ガマ」と呼ばれている鍾乳洞があります。これは、アメリカ軍の攻撃から身を守るためにひめゆり学徒隊51名を含む100名ほどが隠れていた場所です。1945年6月19日黄リン手榴弾が投げ込まれ、ひめゆり学徒隊42名を含む約80名の方が亡くなりました。

## ● ひめゆり学徒隊

「ひめゆり」とは、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校愛称。1945年の沖縄戦では15歳から19歳までの240名の生徒と教師が日本軍の病院に動員され、のちに「ひめゆり学徒隊」と呼ばれました。

## ● 沖縄戦

沖縄戦は一般住民を巻き込んだ地上戦でした。約3カ月間の戦闘による死亡者は日米合わせて20万人以上、そのうちの12万人余りが沖縄県民でした。

## 1 ひめゆりの学校 ～楽しい学校生活と戦場へ駆り立てる教育～



ひめゆりの生徒たちは、部活動に励んだり先生に陰であだ名を付けたりする今と変わらない普通の子供たちでした。当時、天皇は神とされ、小学校から天皇を敬う教育が行われていました。戦争に協力することは天皇と国に報いることだと教えられていました。太平洋戦争が始まった頃から学校も急速に変化し、空襲に備えて防空訓練が行われるようになりました。音楽会の演目には軍歌が増え、「敵国」となったアメリカやイギリスの文化を排斥する運動が起き、英語の授業もなくなりました。沖縄戦への準備は着々と進んでいきました。しかし、彼女たちは沖縄が戦場になったら何が起きるのかわからないまま沖縄陸軍病院に動員されたのです。

## 2 ひめゆりの戦場 ～戦場で体験した壮絶な看護の実態～

### ● 病院は壕の中

「自分たちは爆弾も飛んでこない静かな場所で看護活動をする。2週間もすれば日本軍が勝ってまた戻ってこられる」と思って戦場に向かいました。戦場の病院は建物ではなく、小高い丘の斜面を掘った穴の中に粗末なベッドが設置してあるだけでした。ベッドがなく地面にけが人を寝かせている壕もありました。ここで約2カ月間の看護活動を行いました。

### ● 生徒の仕事

患者の尿を集め、攻撃があるかもしれない中、命がけで壕の外に捨てに行く仕事や、死体埋葬も生徒たちの仕事でした。戦後も死体埋葬の夢をずっと見ていたという体験者もいるくらい大変な仕事でした。

### ● 使われなかった学用品

2～3週間したら学校に戻れると思っていた生徒たちが持っていたものは、筆箱など学用品や本、手鏡や歯ブラシなど。でも、ほとんど使うことはありませんでした。歯も磨けず顔さえ洗えない日々が続きました。



## 3 突然の解散命令 ～行き場を失った生徒たち～

5月末、日本軍は南部に撤退することを決めます。沖縄戦に勝つ見込みはなかったのですが、本土で戦う準備をする時間稼ぎのために戦い続けたのです。ひめゆり学徒隊も6つのガマに分かれて隠れます。6月18日、学徒隊に解散命令が出され、ガマから出るように言われます。しかし、陸からはアメリカ兵と戦車がどんどんやってくるし、海は真っ黒に見えるくらいアメリカの軍艦に囲まれていました。「捕虜になってはいけない、家族にも迷惑がかかる、捕まったらアメリカ兵に八つ裂きにされる」などという宣伝を信じ、「捕虜になるくらいなら死ななければ」と、海岸線を逃げ隠れ、さまよいました。解散命令の後、100名以上の学徒が亡くなりました。



資料館の門はひめゆりの学校の門を模してつくられました。

## 5 ひめゆり平和祈念資料館の設立 ～友だちを忘れないために～

資料館づくりが決まり、体験者たちは40年ぶりに壕の中に入りました。壕の土の中からは、亡くなった友だちの名前が書かれた文房具などの持ち物が出てきました。そのとき出てきたものは現在も「生徒の持ち物」として展示しています。1989年(平成元年)に資料館は開館しました。戦争が終わって40年以上が経ち、社会の中に戦争を知らない人が増えてくると、体験者たちは「戦争がどういふものか知らない」とまじごとが起こるのではないかと危機感を持つようになりました。自分たちは沖縄戦を体験してようやく戦争がどういふものかがわかった。1人でも多くの人に戦争体験を伝えて二度と同じことが起こらないようにと、資料館をつくったのです。

第四展示室には、亡くなった人たち一人一人の顔写真が展示してあります。沖縄戦で亡くなった一人一人に、人生があり、未来があったということに思いを馳せ、同じ体験を繰り返さないためにどうしたらいいか考えてもらいたいという体験者たちの願いが込められています。

### 参加者の感想(抜粋)

笑顔で並んでいる写真の娘さんたちが戦争に駆り出され、つらい目におわされ最後に命まで落とされたと思うと戦争のむごさに涙が出ました。亡くなった数ではなく、一人一人に親がいて悩みや楽しみがあり、やりたいことや希望もあったのにとすると絶対に戦争はしてはいけなと強く思いました。

私たちと何ら変わらない普通の人が体験したことだからこそ、より身近に戦争の恐ろしさを感じ同時に平和の大切さを感じることができました。



※画像提供: ひめゆり平和祈念資料館

## ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館

### 開館時間

午前9:00～午後5:25  
(入館受付は午後5:00まで) 年中無休  
※ひめゆりの塔は、資料館閉館時も来場可

### アクセス

ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館ホームページ  
<https://www.himeyuri.or.jp/>  
〒901-0344  
沖縄県糸満市宇伊原671-1(ひめゆりの塔敷地内)  
電話: 098-997-2100

